

第 210 回競技委員会議事録

1. 日 時：2010 年 11 月 12 日（金）18 時 00 分～19 時 00 分

2. 会 場：連盟本部事務局

3. 出席委員：

競技委員会：委員総数 13、定足数 9、出席 13（内委任状 2）で成立。

清水康裕委員長、平田眞、寺本直志、古田一雄、斉藤千鶴乃、西田奈津子、

正村祐一、山後秀幸、田中陵華、山菅昭夫、仲村篤志

以下委任状：林伸之、佐々部君敏

オブザーバー：大政哲人、鈴木正人

4. 議事の経過及び結果：清水康裕委員長を議長に議事を逐一審議した。

第 1 号議案 競技会規定、マスターポイント規則、公認ディレクター規則改定について

- (1) 競技会規定を第 209 回議事録の「入れ違いボードの IMP スコアリングペアやトータルポイントにおけるスコア数が少ないときの対応」に基づき改訂した事務局案が承認された。
- (2) マスターポイント規則を第 208 回議事録の「マスターポイントの検討に関する報告」の改正にもとづき改正し、新たに「マスター位」「シードポイント計算式」「みなしマスターポイント」について条文化した事務局案が一部修正の上、承認された。
- (3) 公認ディレクター規則の改訂に関して、セクショナルディレクター以上は会員・会友であることが条件であることを明記した事務局案が承認された。

第 2 号議案 用語集とアラートチャートに関して

- (1) 用語集とアラート規定に関する検討委員会より、用語集の第 2 次変更案および、アラート規定および補足の変更案が提出された。
- (2) 用語集においてヘルプスーツゲームトライの表現について問題がないことに合意した。
- (3) ロングスーツゲームトライの表現について「5 枚メジャー基礎コース」などの入門書に配慮した内容に変更することとした。
- (4) アラートチャートに関して、コンペティティブビッドとディフェンシブビッドの違いが指摘され「競り合いのビッド」と表現することとした。
- (5) アラート規定の補足について、検討委員会より提案されたアラート対象コールの変更は行わず現行どおりとすることで合意した。

第 3 号議案 セクショナルディレクター承認

- (1) 以下 1 名のセクショナルディレクターが承認された。
C-00619 久保千恵子 131614（推薦 S-00096 中川澄江）
- (2) セクショナルディレクターの推薦用紙を作成した。

第 4 号議案 マッチポイントにおけるファクタライズに関して

- (1) マッチポイントのファクタライズに関して IMP スコアリングペアと同様にボード入れ違い処理を利用する案が提案された。
- (2) 現行の計算方法に問題があるわけではないので、今後の課題として検討することとした。

第 5 号議案 強いハンドについて

- (1) リスト C に於いても「2C オープン」における「強さ」にガイドラインが必要であることが全員一致で確認された。

- (2) その上でアラートをすれば、クイックトリックがなくても「2C オープン」を取り決めできる現行の規定が妥当であることが全員一致で確認された。

第6号議案 その他議案

- (1) エンゼル・レッドリボン杯の高田馬場会場において、会場での成績発表で間違いがあったことが報告された。
- (a) 2010年12月23日に開催された、エンゼル・レッドリボン杯において大阪会場の2nd Sessionの結果が反映されていない成績を発表してしまった。
- (b) 高田馬場会54ペア、大阪会場23ペア、ディレクター 仲村篤志
- (c) ウェブサイトにおける発表は正しい成績であった。
- (d) 会場内の3位までおよび全体の1位の順位は正しい成績と同じであったため、賞品の授与に問題はなかった。
- (e) 間違いの判明後、高田馬場会場の全プレイヤーに、謝罪文、正しい順位表、各人のプライベートスコアが郵送された。次号の会報に謝罪文を掲載する。
- (f) 間違いの原因は、集計前にJTOSを終了する必要があったのを終了させなかったことが理由で、その後もJTOSの操作中に気づくことが出来たはずの人為的ミスであった。
- (g) 今後分散する会場で集計するときは、会場ごとに計算した結果を連絡し合うことで同様のミスが防げることが報告され、了解された。
- (h) 細田杯などセンター主催で分散した会場で競技会を行う場合、今回の経緯をいかして注意点まとめた文書を作成し配布することとした。

次回競技委員会は3月2日（水）18時00分からの開催を予定する。

以 上